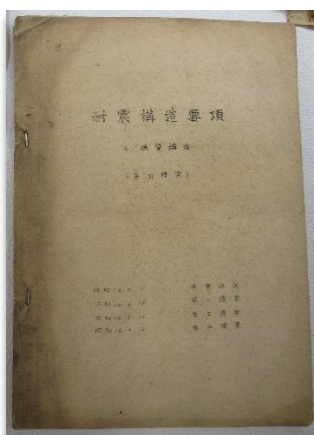


## 耐震研究への関心

子どもの頃に庄内地震と陸羽地震を経験し、内務省技師になりたての大正3(1914)年に生家近くを震源とする仙北地震(強首地震)が発生したことは、その後の長穂の耐震研究に影響を及ぼしたと考えられる。それは、長穂の著書「土木耐震学」の中でこれらの経験や地震を事例として挙げていることから分る。

さらに関東大震災を経験し、被災地での調査で明らかとなった知見を新たな耐震研究に反映させて「土木耐震学」が完成した。

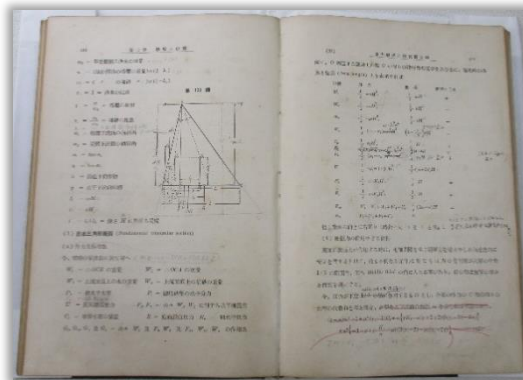


### 耐震構造要項 4 鉄骨構造 (第四読案)

(昭和16年)

長穂が亡くなる直前の昭和16年9月2日に発行された耐震構造要項。鉄骨構造においては高層建築・平家建・大スパン構造にわけて、構造上の注意を記したもの。

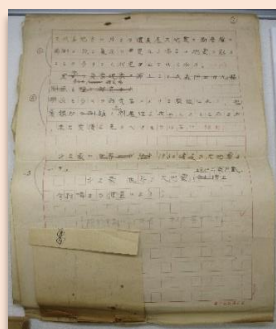
物部長穂関係資料



### 土木耐震学 (昭和8年4月5日発行)

関東大震災の調査研究成果を踏まえた、これまでの構造物の耐震性に関する研究の集大成。

物部長穂関係資料



「土木耐震学」出版後に手書きで修正されているのがわかる。また、2冊のうち手書きされている本には校正指示が挟まっており、出版後に校正に着手していたことがわかる。

その後…

## 教育者として

長穂は、大正15年に東京帝国大学教授を兼任すると、同年4月から河川工学講座を担当、卒業後に土木工学界で活躍する後進の育成にも力を注ぎました。



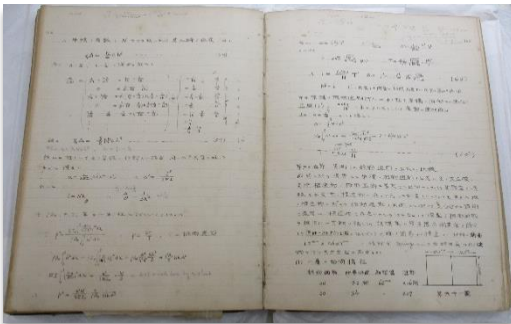
長穂の教え子たち  
(のちに土木工学  
界で活躍する伊藤  
令二などがいる)



学生とともに撮影した長穂の写真



自宅前で撮影  
した長穂

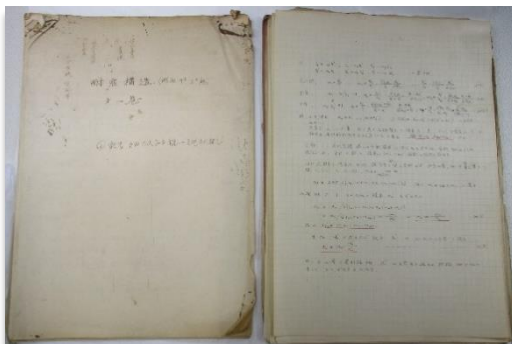


## 構造物ノ振動並ニ其耐震性ニ就テ

(大正6～13年)

大正9年に東京帝国大学に提出した学位請求論文。この論文により工学博士の学位を取得した。展示資料は、直筆の日付から、論文の控えに大正13年1月まで加筆したものと推察される。

物部長穂関係資料



## 耐震構造 第一巻 (昭和9年2月～)

「土木耐震学」刊行後に書かれた、耐震構造に関する著作物の原稿。書籍として出版されていないため、未完か。

物部長穂関係資料